

## 東京山桜会

TOKYO

## 東京山桜会 第19回校外教授

佐伯 文子 (大手前中・高19期)

2017年11月22日、15名の参加者が「中国飯店市ヶ谷店」に集まり、美味しい料理に舌鼓を打って話も盛り上がり、昼食を楽しんだ後、徒歩で靖国神社に参拝に向かいました。春の靖国神社・千鳥ヶ淵周辺は、見事な桜が咲いて花見客で賑わいます。靖国神社の桜は、1870年靖国神社競馬場が開設された際、その周辺に木戸孝允(桂小五郎)によって数十本の桜が植えられたのが始まりです。境内にある桜の中でも3本の染井吉野は、東京都の「桜の開花宣言」を告げる標本木になっています。神門の中央の二つの扉には直径1.5mの菊花の紋章があり、そこを

通って各々で拝殿に参拝をした後で隣接の遊就館を見学しました。神主さんの案内により、先人達がいかにしてこの国を守ろうとしてきたか歴史や著名な和歌の説明があり、古代から近世に至る武の精神を表現している刀、甲冑などを見ました。幕末から戊辰、西南戦争などの史・資料と共に、戊辰戦争の官軍側戦没者を祀った「招魂社」が近代国家建設のために尽力した多くの尊い命を捧げた人々の霊を慰め、その事績を後世に伝えようと明治天皇が創建され、1879年(明治12年)6月4日「靖国神社」と改称された歴史の説明を受けました。「靖国」は、平和な国家を

室には戦跡収集品や人間魚雷「回天」、ロケット特攻機「桜花」、艦上爆撃機「彗星」、97式中戦車、戦艦「陸奥」副砲などが展示してあり、玄関ホールには、ゼロ戦、C56型31号機関車もありました。靖国神社には、幕末の1853年(嘉永6年)以降国を守るために尊い生命を捧げられた246万6千余柱の方々の神霊が、その事績を後世に伝えることを目的として、身分や勲功、男女の別なくお祀りされています。また明治維新の魁となった坂本龍馬、吉田松陰、高杉晋作、橋本左内といった幕末の志士達もお祀りされています。戦争を知らない私達は「平和であるありがたさ」を実感しながら、家路へとたどりつくのでした。



建設するという願いを込めた社号だそうです。日清戦争、日露戦争、満州事変、支那事変の近代史を学ぶ展示室があり英霊の「みこころ」にふれる遺品や遺書の展示室があり、大展示

## 「校外教授」次回のお知らせ

11月21日(水)

「江戸東京博物館見学と  
両国ちゃんこ鍋のぶらり散歩」  
詳細は別途案内します。

## 第1回「思わず笑顔になる文章コンテスト」 表彰式に参加して

副会長 藤村 敬 (小79期)

「思わず笑顔になる文章コンテスト」とは…文章コンクール「青が散る」Awardを発展的継承して、追手門学院創立130周年記念事業の一つとして創設されたものです。「大阪らしさの再確認と笑いの文化の連携」という願いをこめた、記念すべき第1回コンテストは「読めばみんながしあわせになる」というテーマで、7891の応募数となりました。

表彰式は、2018年1月20日(土)大阪色コテコテの新世界「通天閣」にて行われました。各賞表彰の後では、司会者による全作品の朗読。親との会話、兄弟のこと、学校での出来事など日常のありふれた生活の中での、ちょっとした笑いが沢山。苦笑い、吹き出すような笑い、そして笑顔…様々な表情にしてくれる作品たちの披露の場となりました。

表彰式終了後は、余韻が残る笑顔で新世界定番のビール

に串カツ。笑いが飛び交うにぎやかな新世界を見て…「やっぱり、笑いは大阪の文化や」

今年の第2回コンテストは、山桜会も後援させていただきます。ぜひ会員の皆様の笑いのご応募をお待ちしております。

表彰結果はホームページをご覧ください。

<http://www.otemon.jp/eri/>



つばきの部 受賞者



作文・エッセイの部 受賞者